

農業委員会だより



網野町浅茂川の水無月祭(通称 かわっそさん) 神輿の「海上渡御」で祭のクライマックスをむかえます。

● 目 次 ●

2~3P **「農を語る」** 袖志棚田保存会会長 平井 貞雄さん

4P **「農業法人訪問」** 株式会社ひらばやし農産

5P **人・農地プラン**

6P **液肥の普及、年々拡大へ
「サル駆除班ただいま活動中」**

7P **声・ボイス** 「私たちはTPPに反対しています」

8P **がんばってます!!** 中井敏博さん(峰山町)
川上村ふれあい朝市(久美浜町)
サツマイモの植付(こうりゅう保育所)
9P **京丹後アグリ瓦版** 古代米の田植(芋野郷赤米保存会)
茶摘み・製茶体験(網野地域公民館他)

10P **京丹後紀行** 鉄馬(弥栄町)
お米推進レシビ 「たこ飯」

農を語る

「みんなで再生、袖志の棚田を未来へ」

このうえない美しい風景と
里、山、海の新鮮で美味しい食材。
素朴で、人情味あふれる
袖志の魅力を
都会で暮らす人に伝えたい。

山陰海岸ジオパークの奇岩、絶景が続く国道二七八号線（丹後半島一周道路）を間人から東へ車で二〇分。左に日本海の大平原が広がり、右に集落と棚田が美しい調和を見せる日本の棚田百選の景勝地「袖志」です。

そんな棚田で仕事を終えた平井貞雄さんにお話を聞きました。

遊休農地の増加

この地区も昨今の御多分に洩れず、耕作者の高齢化、または後継者不足により、耕作されず荒れる田が少しずつ増えてきました。さらにこの棚田は、急な傾斜地に先人達が石を一個づつ積み上げ、苦労の末造

袖志棚田保存会会長

平井 貞雄さん (64)

(丹後町袖志)

り上げた田です。

「一枚一枚の面積が小さく、段差もあり、機械化も容易に進まないのも実情です。この様な負の条件も重なって遊休農地は増えてきました。」

棚田の再生

平成十二年、袖志の棚田が「日本の棚田百選」に認定されました。その棚田の保全と再生を目的に平成二十三年に「袖志棚田保存会」を立ち上げ「何とかこの荒れた田んぼを再生し、棚田を守りたい。」という気持ちで、行政のアドバイスを受けて、京都府の「命の里事業」を導入しました。
トラクター等も通らない不便な田んぼへ農道を作り、法面も整備し、

見事三〇アールの田が甦り遊休農地の解消が図られました。

今回の取り組みは、大学生や一般のボランティアと共に、「棚田再生プロジェクト」を立ち上げ、地域の人も一緒に、田植えから収穫まで「みんなで再生」袖志の棚田を未来へ」を合言葉に活動を始めたのが契機で、彼等との交流も三年目を迎えています。

袖志の自然を体験

今年から「農家漁家民宿」四軒が営業を始めています。農家漁家民宿とは、農業者や漁業者との交流と、田舎のありのままの暮らし体験をテーマにした宿泊施設で、私もそのメンバーの一人です。

海での船釣や棚田での農作業体験など、自然体でもてなしたいですね。

この夏には袖志区も一体となり、都市部の田舎のない子ども達を対象に、袖志の暮らしを体感してもらうツアーを企画しています。

取材をとおして地域住民の豊かな町づくりに希望が見えてきていると感じました。

今後も棚田保存会の皆さん、袖志区の皆さんの活躍を祈念しております。

取材 金羽 廣明委員
川畔 明美委員



「然 & 粋」 大下教夫さん夫婦



「かめや」 平賀勝男さん夫婦



「ひらのや」 平井貞雄さん夫婦

一人ひとりの
農業者を応援する

農業者年金

私たちも入ってます。



久美浜町三谷 和田泰幸さん親子

農業者年金 6つのポイント

- 1 農業者なら広く加入できる
- 2 積立方式・確定拠出型で安定した年金財政
- 3 保険料の国庫補助
- 4 保険料は自由に選択
- 5 税制面で大きな優遇
- 6 80歳までの保証がついた終身年金

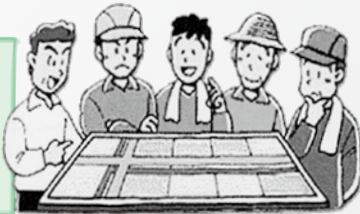
農地を次の世代に引き継ぐために 皆さんの地域の「人と農地の問題」について考えてみませんか？

農業者の後継者不足、耕作放棄地の増加など「人と農地の問題」があり、5年後、10年後の展望が描けない地域が増えています。
皆さんの地域ではいかがでしょうか？
地域の皆さんで話し合っ
てプランを作り、実行していくことによっ
て「人と農地の問題」を解決しましょ
う。
プランの作成や就農者の増加、農地の集積を応援します。

1人・農地プランは、人と農地の問題を解決するための「未来の設計図」です。

☆集落・地域における話し合いによって、

- ◎今後の中心となる経営体(個人、法人、集落営農)はどこか
- ◎中心となる経営体へどうやって農地を集めるか
- ◎中心となる経営体とそれ以外の農業者(兼業農家、自給的農家)を含めた地域農業のあり方(生産品目、経営の複合化、6次産業化)



などを決めていただきます。

2人・農地プランには、様々なメリットがあります。

☆人・農地プランに位置付けられると、

- ◎青年就農給付金(経営開始型)
※準備型(研修中)は、人・農地プランと関係なく給付します
- ◎農地集積協力金(中心となる経営体に農地を提供する方)
- ◎スーパーL資金の当初5年間無利子化(認定農業者)

といった支援を受けることができます。

3人・農地プランは、随時見直すことができます。

☆最初からパーフェクトなプランにする必要はありません。
必要な部分から始めて、順次拡大していくことでかまいません。一旦プランを決めても、

- ◎新規就農者が新たに出てきたとき
- ◎集落営農・法人を立ち上げ、中心となる経営体となるとき
- ◎引退を決意して農地集積協力金をもらおうとするとき

などは、見直せば、2のメリットを受けられます。

京都府では「京力農場プラン」として、推進しています。

＜集落における話し合いにあたって＞
人・農地プランの範囲は、地域的なまとまりを持つ農業集落や地域をエリアとすることを基本としますが、地域の実情に応じて複数集落やもっと広いエリアでも可能です。

人・農地
プラン

お問い合わせ先／京丹後市 農林水産環境部 農政課 Tel0772-69-0410

株式会社ひらばやし農産 (久美浜町甲山)

代表取締役
平林 保信さん (64)

平成23年に農業生産法人として会社を立ち上げられた平林保信さん。法人設立に至った農業にかける熱い思いを伺いました。



自慢の黒大豆のは場にて

地域の農業を守りたい

久美浜町甲山地区は、府営土地改良事業の完成により大区画となった農地の保全・管理を目指し以前からあった甲山区営農組合の法人化を目指しましたが、地域合意が難しく、自分でやるしかないと思
い、昨年8月に個人経営を法人化しました。

私は農業が好きで農業の発展をずっと考えてきました。周囲の農地の荒廃や地区民の農業への関心の低下を悲しく思っています。自分も農業委員ですが、農地の転用等に対して農業委員会がもっと厳しい対応をするべきではないかと思っています。

もっと地域全体で農業に取り組むべきだが、まず自分がやってみて地域の人に対して農業への関心を高

作物別作付面積	現状	目標(H28年)
水稻(作業受託含む)	10.7ha	20.0ha
黒大豆	1.6ha	0.6ha
小豆	0.8ha	0.6ha
青大豆	1.0ha	2.2ha
施設野菜(みず菜・九条ねぎ)	0.1ha	0.1ha
露地野菜(枝豆・甘藷・大根)	0.6ha	1.0ha

めたいと思っています。法人化は今後の経営強化の方法として取り入れました。自分の子供も将来農業を継いでくれると思う。これから経営の傳承をしていきたいと考えています。今後若い世代がどの様に就農するか考える必要があり、行政も真剣に取り組んでほしい。農業者は地域の守り手として非常に重要な役割を持っているし、農地は防災機能も兼ね備えており、出来る限り農地の保全を行うべきである。地域の守り手を残していくような行政施策が必要であり、私は、日本の農業の基礎である米と水田を守ってきたい。

.....
自らの農業への思い、地域への思い、将来の思いを語っていただきました。
.....

取材当日は甲山地区の各隣組で家族総出のバーベキュー大会が開催されていました。こうした地域の絆の強さが平林さんの熱意の源になっているような気がします。

取材：藤本和久委員



全国農業新聞を購読してみませんか？

全国農業新聞は公的機関である農業委員会系統組織が発行する週刊の農業総合専門紙です。「週刊」ということから日々の報道には限界がありますが、むしろ週刊の時間を活かし、大切な情報をわかりやすくまとめています。
また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

週刊 金曜日発行 月600円、年7,200円(消費税込み) 購読の申込みは京丹後市農業委員会へお気軽に連絡ください。

声・ボイス

私たちはTPPに 反対しています

太陽の光、空気、水など様々な自然の恵みを受け、農業者の智慧と工夫、日夜のたゆみない努力で食料は生み出されています。

また、わたし達人間は、愛情を注いで育てた生き物の尊い命を食物としていただいています。

これが「食す」ということであり、「人」は他の命をいただいて生かされているのです。

私たち農業者は命を守り、命を育むのが本来の業なのです。

今、TPP(環太平洋戦略的経済連携協定)への参加に対する事前交渉が始まっています。

TPPは関税を例外なく撤廃するというルールです。

このような極端な制度の中で「農村」そして「農業」をどのように守っていくのでしょうか。

食料自給率向上目標50%は本当に達成されるのでしょうか。

食の安全、安心は大丈夫なのでしょうか。

外国とのし烈な低価格競争の結果、耕作放棄地の増加等に一層拍車がかかり、農業の多面的な機能や、美しい農村の風景が、失われてしまうようなことにならないでしょうか。

また、農業以外でも、保険、金融、医療など、そして雇用、地域経済への影響はどうなるのでしょうか。

失われるかもしれないのは働く者の職であり、国民の健康な生活と、日々のやすらぎです。

山と、海と、川と、田畑が織りなす日本の美しい風景と、北から南、多様な地域に根ざした農林漁業を、次の世代へとしっかりとつないでいきたいと、私たちは思っています。

これらの懸念を拭い去るには、あまりにも情報が不足しています。

TPPを押し進めるならば、全ての情報を開示した上で、国民的な議論を望みたい。

TPPへの参加問題は、日本の将来にわたって、国民の安全、安心に重大な影響を及ぼしかねない問題だからこそ、私たちは拙速な加入に反対の声をあげていることに、ご理解をいただきたいのです。

京丹後市農業委員会

水稻を中心に6倍増の利用 京丹後市エコエネルギーセンター液肥

京丹後市エコエネルギーセンターでバイオガス発電をした際にできるメタン発酵消化液には、農作物に必要な窒素・リン酸・カリなどの肥料成分が含まれていることから、液肥としての利用が水稻を中心として牧草、玉ねぎ、ブロッコリーなどの畑作でも普及してきています。

取組みが始まった平成22年度の利用量は287トでしたが、平成23年度には1,845トと飛躍的に伸びました。市が実施した水稻のモデル実証栽培(約12畝)により栽培データを集めたところ、米の平均反収は493キログラム。食味の平均は80ポイントと慣行栽培とまったく遜色ないことがわかりました。



液肥で栽培していることを示す看板(弥栄町溝谷)

今年度は、42名の農家が水稻基肥として約40畝の農地に1,380トを利用しています。さらに、国営開発農地でも畑作への利用により現時点で計2,100トの利用があり、早くも昨年二年間の利用実績を大きく上回っています。

こうした急速な普及の背景には、市販肥料に比べて割安で施用でき、専用のクローラ車で散布サービスを受けられるなど、コスト削減と労力削減の2つのメリットが挙げられています。

昨年12月には、液肥利用者協議会(会長:尾畑興市氏)が発足し、35名の農家が液肥を施用した栽培技術の向上やブランド化に取り組みんでいます。また、液肥を利用した農産物のブランド名称を全国公募して、応募のあった580作品の中から「環のちから」というブランド名が採用されました。

協議会では、「環のちから」ブランドとして、24年産米からの販売を目指し、栽培方法の統一化や販路の開拓に取り組んでいます。

さらに平成24年度から、水稻栽培におけるエコファーマーの認定資材に加えられたこともあり、環境保全型農業推進の一翼を担うこととなりました。

将来的には、学校給食への提供も視野に入れて、子供たちへの環境学習の材料にもなる資源循環の物語性をもった農産物の生産に取り組むこととしています。

園農林水産環境部
環境バイオマス推進課

☎6910480

「サル駆除班 ただいま活動中」

京丹後市では人馴れが進んだサルを駆除するために、サル駆除班を編成しています。竹野郡支部猟友会の猟銃所持者で編成し、サルが群れて出没した場合に地区の依頼を受けて活動します。平成24年度は6月だけで11回出動し、9頭のサルを駆除しました。

猟銃を使用するため、地域の皆様には捕獲場所への立入り制限や追い払いの中断を依頼することがありますが、安全で効率的な駆除を行うための措置ですのでご理解、ご協力いただきますようお願いいたします。

園農林水産環境部農林整備課(Tel.0772-69-0430)



駆除にあたる猟友会員

おおきくな〜れ!

6月12日の朝、こうりゅう保育所のキリン組とパンダ組の児童50人により所内の運動場の一角に設けられた畑でサツマイモの苗の植栽が行われました。まずはキリン組のお兄ちゃんお姉ちゃんがパンダ組の子たちの面倒を見ながら、二人一組になり、一人 30 円を握りしめ、近くの直売所へ。「**サツマイモの苗をください**」と大きな声で注文。かわいい買い物客の来店に他のお客さんの笑顔がこぼれていました。

みんなの買い物が終わると保育所へ帰り、先生から苗の植え方を教わって植え付け。植えた苗に水をやってみんなでサツマイモ苗に「おおきくな〜れ」と精一杯の大きな声でお願いしました。

秋の収穫が楽しみです。

茶摘み・製茶体験をおこないました。

▲こうりゅう保育所園庭にて

古代米の田植えが行われました。

弥栄町和田野の芦田行雄さん(87)から「芋野郷赤米保存会」(会長藤村政良さん(62))に昨年引き継がれた古代米の田植えが6月17日に行われました。

「総社赤」を始め6種の古代米を無農薬・無肥料で栽培されます。

当日は、地元の親子や芦田さんが主宰する「あかごめ学校」の会員さんも集まり、約 60 人が参加しました。

会長の藤村さんは「平城宮に赤米を献上した芋野の地で古代米を作ることが自慢であり、若い人にも今後、引き継いで行きたい」と、古代米の栽培にかける熱い思いを語られました。



▲横一列になつての手植作業



▲茶摘み体験をする親子(国営永留2団地)

網野地域公民館及び網野ボランティアグループ網野町ウィークエンド事業推進協議会は6月9日(土)に町内小学生児童41人により、農作物の生育に関心を持ち親しむ機会を得ることを目的にお茶の製茶体験が行われました。当日はあいにくの空模様で、予定していた茶摘み作業は中止となりましたが、会場の三津区民センター内に於いて府農業改良普及センターと(株)京丹後製茶の職員の指導のもと、子供と大人が8班に分かれて製茶作業を行いました。ホットプレートで水分を飛ばし、手もみを行う作業を体験。最後は(株)京丹後製茶で製茶したお茶と自分たちで製茶したお茶の飲み比べをしました。

また、7月22日(日)には久美浜地域公民館主催で「親と子のふるさと教室」が行われ、町内小学生以下の児童及び家族12人が茶摘み体験とホットプレート製茶を体験しました。



▲手もみ作業を行う児童ら

米の品質にこだわっています

中井 敏博さん(峰山町五箇)

水稻13畝を耕作する五箇地区の中井敏博さん(61)は、水稻丹後コシヒカリの特別栽培米を中心にハウス8棟で、みず菜・壬生菜などを手広く営農されています。

環境に配慮し冬期湛水、減農薬、減化学肥料。米の選別には2ミリの網目を使用し、さらに色選機も導入して品質の高い米づくりにこだわっているとのこと。

今一番大変なのは獣害対策。今まで色々防護策を取ってきたが、現在は農地をメッシュで囲い、その上にはネットを張って防いでいます。20年前にはシカもイノシシも人里までは出て来なかった。獣害対策で要らぬ労力、費用の出費がやる気をそぐ。ハウスの中にまでイノシシが入ってくる……とにかく個体数を減らしてほしいと願っています。おいしい米や野菜づくりにがんばっています。

▲米づくりの苦勞を語る中井さん

取材
谷口光委員

がんばってます!!!

▶ばら寿司への具材の盛付け
この日も米一斗五升使いました

▶7月22日の朝市の模様

川上村 ふれあい朝市

(久美浜町金谷)

久美浜町金谷地区で8年前から始まった朝市(金谷朝市実行委員会代表山添善明氏)は毎週日曜日に開催され、月に一度は規模を大きくして「川上村」ふれあい朝市が開かれています。

このふれあい朝市では地元で採れた新鮮な野菜はもちろん、農産物以外の魚や洋服の販売もあり、多くのお客様で賑わっています。なかでも、おいしいと評判の色とりどりのばら寿司は多くのお客様が買い求めていました。

おめでとうございます



ふじもとかずひさ
藤本和久さん(57)
久美浜町葛野



たち の さだまさ
立野 定さん(70)
網野町郷



よしむらみき
由村幹夫さん(64)
大宮町延利



かもただし
鴨田忠司さん(74)
大宮町上常吉



う の あきただ
宇野明忠さん(73)
丹後町成願寺

平成24年3月28日開催の京都府農業会議総会において、長年にわたり農業委員の職に専念された功績が認められ、5名の方が京都府農業会議会長表彰を授与されました。

京丹後紀行

「鉄馬」

— 弥栄町 奈具 —



奈具から出土した鉄馬

平成二十三年度「みねやま秋の文化祭」に鉄馬（個人蔵・府立丹後郷土資料館寄託）の展示があった。奈具出土、時代は六世紀後半か？神を祀る祭祀具等とあり、出土例は全国的にも極めて少なく、愛知県渥美半島・田原市の栄厳古墳付近から出土の鉄馬も、足の短い奈具出土

の馬とそうくりだが、「足の短い鉄馬は韓半島にもあり、古墳時代より後の時代に、付近で行われた祭祀に使われたものと考えられる」とある。

奈具に祭られているのは、羽衣伝説で有名な天女。羽衣を奪われ、酒造りで富ましたにもか、わらず追い出され、悲しみにくれた天女は、流離の末、奈具の村人の親切を受け「こに至りて吾が心なご和しくなりぬ」と言つて、この地にとどまり生涯を終えたと伝えられており、それが奈具神社、奈具の地名の由来ともなっている。

今ではすっかり農耕の牛馬も見かけなくなつて久しいが、私達ガキの頃には、馬の糞を踏むと背が高くなる、牛の糞は駄目と言つて、ベタ（荷馬車）を挽く馬の後について争つて踏んだものだ。今となつてはなんと馬鹿げたことと笑つてしまふが、小柄だったA君、B君等の悪ガキ連中も、いつのまにか私を抜いてしまつてた。やつぱり何事も真剣さの成せる技だったのか？そんな往時のガキの頃の姿が目に浮ぶ今日この頃なのである。

さて、今年はロンドン五輪の年。馬術競技では史上最年長七十才の法華津寛選手がウィスパ号とペアを組み出場される。同年代の筆者とすればまことに喜ばしい限りで「まだまだ負けてはいられないぞ」と元気をもらつて、精一杯の声援を送りたい。

写真 藤村裕孝さん

文 鴨田忠司

たこ飯



材 料

米	5合	【調味料】
昆布だし	4カップ	薄口醤油
たこの足（湯がいた物）	400g	酒
ねぎ	2本	塩

作り方

- ① 米は洗って昆布だしに30分つけて、米をザルに上げておく。
- ② 食べやすい大きさにたこを輪切りにする。
- ③ たこに昆布だしと調味料を合わせて少し炊いてから、その汁と米を炊飯器に入れて水加減をして炊く。ご飯が煮立ち蒸気があがってきたら、たこを手早く入れスイッチが切れるまで炊く。
- ④ 炊きあがったら全体を軽く混ぜる。
- ⑤ 器に盛り、お好みでねぎの輪切りを散らします。

ひとこと

手に入るなら「生のタコ」を塩でもんで洗ってから使った方が柔らかく仕上がります。



米田委員

お米推進レシピ